2026年12月期
第2四半期決算説明資料

ビリングシステム株式会社

2026年8月13日

Billing System

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

第2四半期決算説明資料サマリー

ハイライト

- 前年同期比で**増収増益**を達成しました。**経常利益は前年同期比159.4％となる444百万円**で着地しました。
- 新サービスも含めストック収益が着実に伸長し、**全体業績は計画通りに進捗し、下半期に向けて成長基調を維持しております。**
- PayBの取扱件数が過去最高を記録する等、主力の「決済支援事業」が堅調に実績を積み上げております。

2026/12期2Q 業績

業績	・売上高：	2,589百万円（前年同期比 117.1％）	
	・営業利益：	430百万円（前年同期比 155.3％）	
	・経常利益：	444百万円（前年同期比 159.4％）	
KPI	・PayB提携金融機関数（累計）：	90機関	（1Q末比＋2機関）※内定先含む
	・PayB提携収納機関数（累計）：	19,042件	（1Q末比＋297件）
	・ストック収入（1-6月）：	2,198百万円	（前年Q1-2合計比 107.5％）
	・ストック比率（1-6月）：	84.9％	（前年Q1-2合計は、92.5％）

トピック

事業

- PayB提携金融機関および提携収納機関が拡大するとともに、自動車税納付のタイミングも重なり過去最高の取扱件数に
- ATM PayBでは、中国銀行、鹿児島銀行、農林中央金庫、百五銀行との連携を進め、ATM領域では全国数万台規模の採用が進展
- 横浜銀行とは、ATMでの連携に加えて、横浜銀行アプリ「はまぎん365」への機能提供・連携。税金・公共料金等の収納機能強化と利用基盤の拡大を実現

その他

- 5月より有料版生成AIを全社導入し、社内横断プロジェクトを立ち上げ業務への組み込みを加速
- 働きやすさと働きがいの両立を重要なテーマと位置づけ、制度面・環境面の双方から継続的な改善に取り組み、『ストレスフリーカンパニー2026』を受賞

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

目次

Billing System
ビリングシステム株式会社

01	四半期業績	P4
02	ビジネスアップデート	P21
03	通期見通し	P27
04	Appendix	P34

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

01

四半期業績

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

2026年12月期　第2四半期　業績

- 売上・利益ともに昨年実績を上回り、増収増益での着地となりました。
- 売上総利益率は前年同期比+5.3ポイント改善の39.4%となり、1Qに続き好調に推移いたしました。
- 各利益も堅調に推移しており、通期業績予想の達成に向けて順調に進捗しております。

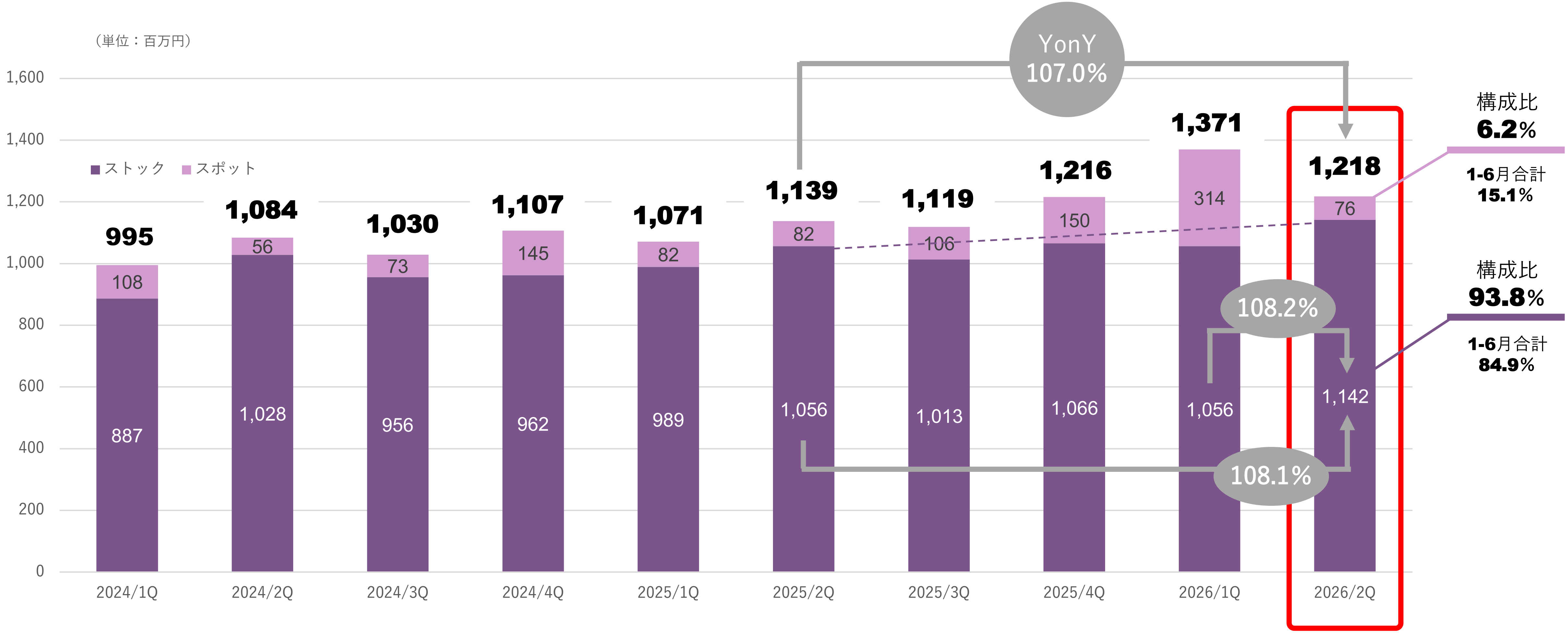
（金額単位：百万円）	2025/12期 2Q累計実績	2026/12期 2Q累計実績	前年同期比	2026/12期 通期業績予想	進捗率
売上高	**2,211**	**2,589**	117.1%	**5,607**	46.2% (前年同期の進捗率は46.1%)
売上総利益	**754**	**1,019**	135.1%	–	
売上総利益率	**34.1%**	**39.4%**	+5.3ポイント	–	–
販管費	**477**	**589**	123.4%	–	–
営業利益	**277**	**430**	155.3%	**929**	46.3% (前年同期の進捗率は37.0%)
営業利益率	**12.5%**	**16.6%**	+4.1ポイント	–	
経常利益	**278**	**444**	159.4%	**926**	48.0% (前年同期の進捗率は37.3%)
経常利益率	**12.6%**	**17.2%**	+4.6ポイント	–	
当期純利益	**175**	**283**	161.3%	**584**	48.4% (前年同期の進捗率は37.7%)
当期純利益率	**7.9%**	**10.9%**	+3.0ポイント	–	
EPS（円）	**27.93**	**45.35**	162.3%	**93.01**	48.8% (前年同期の進捗率は37.8%)

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

ストック/スポット売上の推移

● 四半期ごとの売上推移は安定的に上昇基調を継続しており、前年同期比107.0%となる1,218百万円となりました。

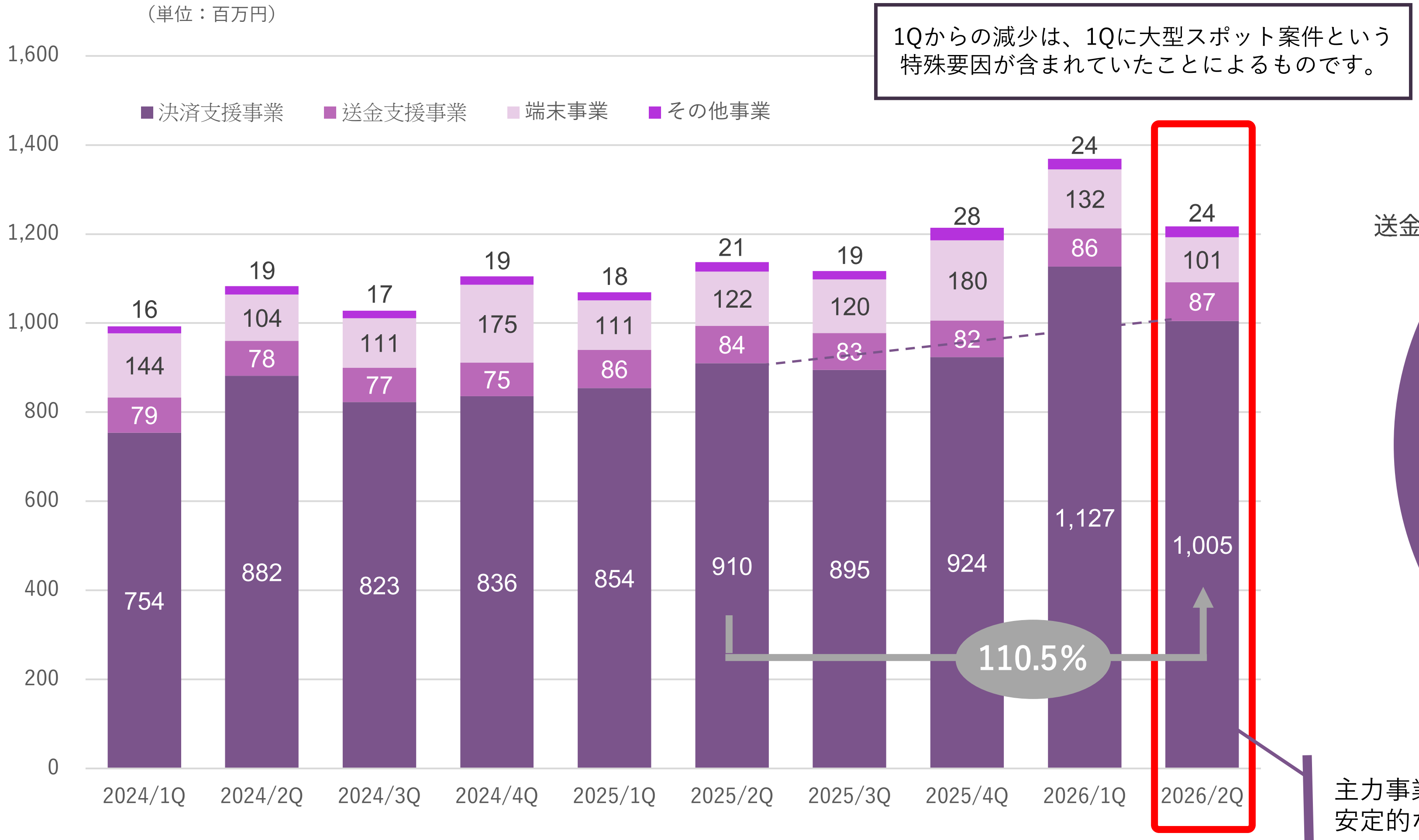
● ストック売上は前年同期比108.1%の1,142百万円と着実に積み上がり、構成比も平常化して93.8%となりました。

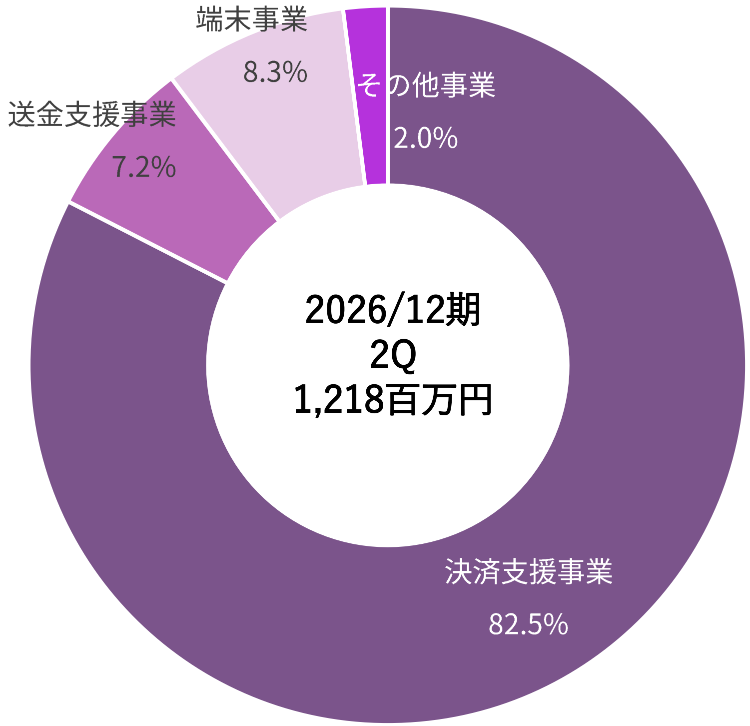


Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

セグメント別の売上の推移・構成比

● 売上構成は、収納代行、クイック入金、PayBなど、主力の「決済支援事業」が前年同期比110.5%と伸長しました。





主力事業である「決済支援事業」で、決済件数が着実に積み上がり、安定的な成長を実現しています。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

セグメント別の売上の推移（数値データ）

（単位：百万円）

セグメント		売上	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年 1Q	2026年 2Q
決済支援	・PayB ・クイック入金 ・収納代行 ・スマホマルチ	ストック	2,385	2,735	3,235	3,475	890	971
		スポット	323	128	58	109	236	33
		小計	2,708	2,863	3,293	3,584	1,127	1,005
送金支援	・送金代行 ・公共料金	ストック	250	298	308	333	86	87
		スポット	5	10	1	3	0	0
		小計	255	308	309	336	86	87
端末	・キャッシュレス端末	ストック	123	127	216	237	57	59
		スポット	286	417	319	298	75	42
		小計	409	544	535	535	132	101
その他	・ファイナンス等 ・その他	ストック	51	58	72	78	21	24
		スポット	7	2	2	9	2	0
		小計	58	60	74	87	24	24
合計		ストック	2,812	3,221	3,835	4,125	1,056	1,142
		スポット	622	561	383	421	314	76
		合計	3,434	3,782	4,218	4,546	1,371	1,218

決済支援事業

クイック入金・収納代行・PayB

- 1Qに続き、主力の決済支援事業が業績を牽引しました。決済件数の着実な積み上がりによる構造的な事業成長を実現しております。

送金支援事業

公共料金支払代行・PayB for Business

- 公共料金分野に加え、PayB for Businessの利用拡大が進み、新たな成長ドライバーとして業績に寄与しはじめております。

端末事業

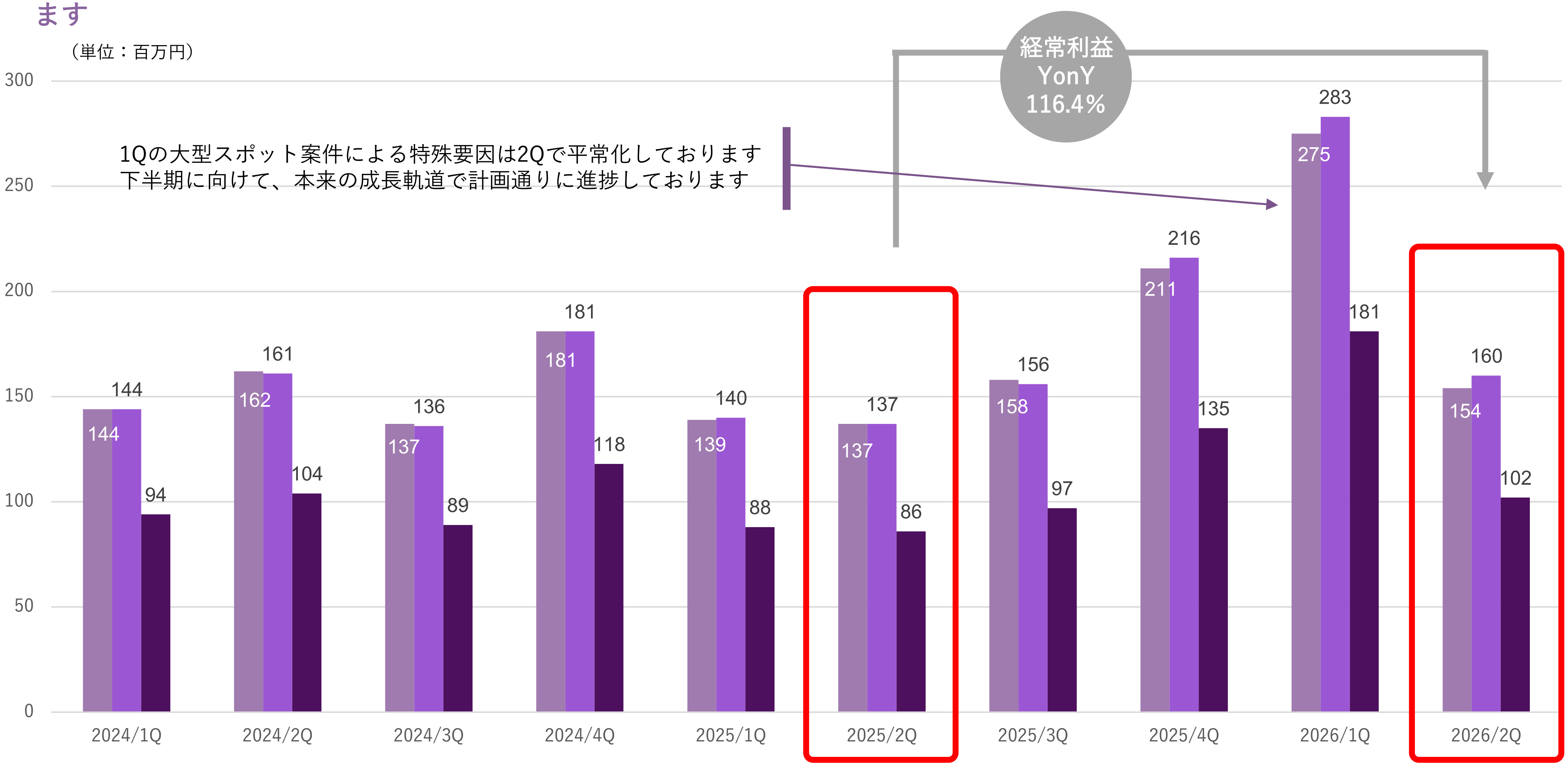
キャッシュレス端末

- 端末導入後のストック売上が確実に積み上がっております。
- 一方、新機種の認証手続き等により市場投入が遅延していますが、商談は先行して進んでおります。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

営業利益・経常利益・当期純利益の推移（四半期）

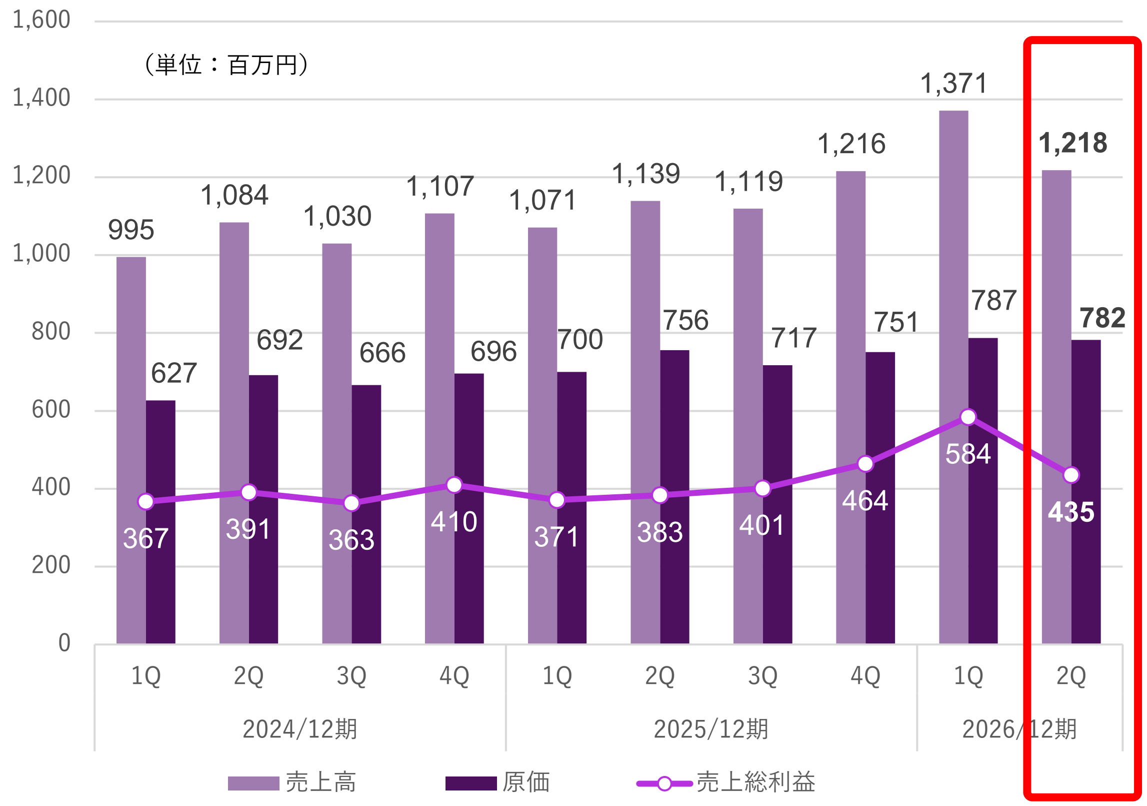
- 増収にともない、営業利益・経常利益・当期純利益ともに前年同期比で増益となりました
- 1Qの高水準な利益は2Qに入って平常化したものの、計画通りの成長軌道に沿って順調に進捗し、下半期に向けて成長基調を維持しております



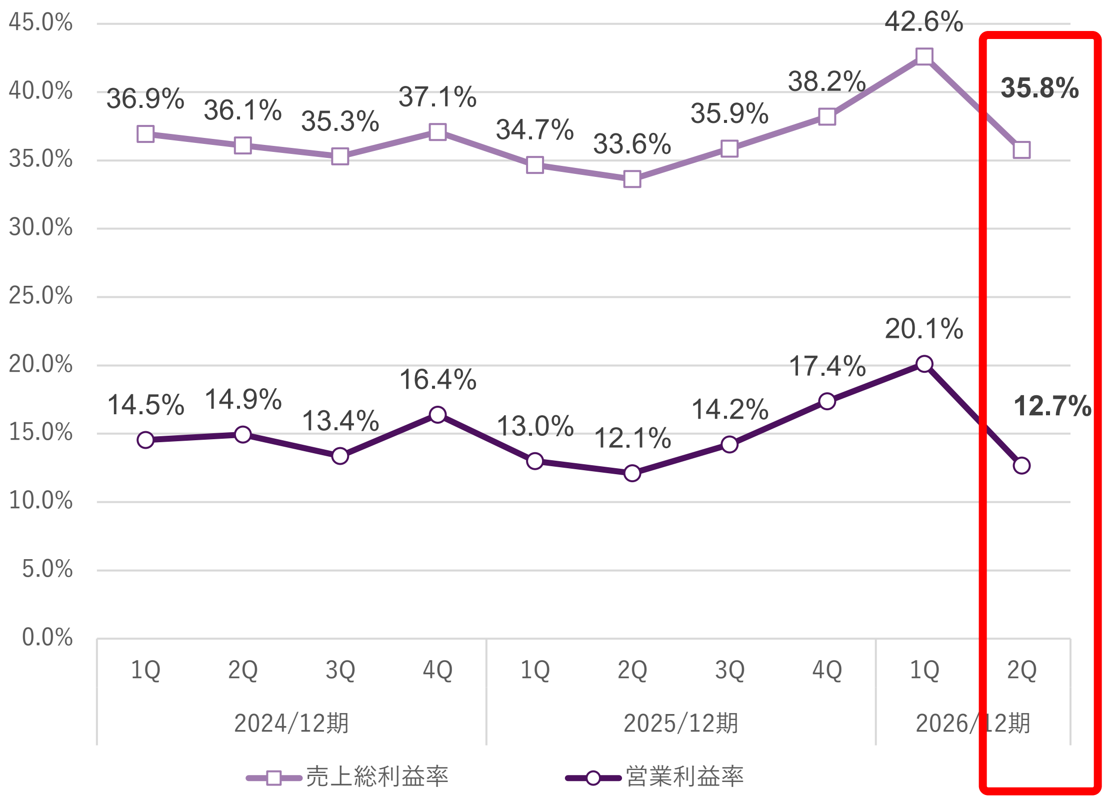
Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

収益構造（四半期）

売上高・原価及び売上総利益の四半期推移



売上総利益率及び営業利益率の四半期推移



- 1Qの特殊要因は2Qで平常化しました

- 2Qにおいても売上総利益率は35.8%（前年同期比＋2.2ﾎﾟｲﾝﾄ）と高水準を維持しております
- 1Q比での低下は、順調に進捗した採用による先行投資を反映したものです

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

貸借対照表

（金額単位：百万円）	2025/12期 2Q末	2025/12期 4Q末	2026/12期 2Q末	前期末比
流動資産	33,941	29,740	41,381	139.1%
固定資産	468	406	413	101.6%
資産合計	**34,409**	**30,146**	**41,794**	**138.6%**
流動負債	31,299	26,828	38,420	143.2%
固定負債	39	41	33	81.5%
負債合計	**31,339**	**26,869**	**38,454**	**143.1%**
株主資本	2,866	3,099	3,157	101.9%
その他	71	33	33	98.6%
非支配株主持分	131	144	149	103.9%
純資産合計	**3,069**	**3,276**	**3,340**	**101.9%**
自己資本比率（預り金を控除した自己資本比率）	**8.5%（64.6%）**	**10.4%（79.1%）**	**7.6%（77.6%）**	**-2.8ﾎﾟｲﾝﾄ（-1.5ﾎﾟｲﾝﾄ）**

流動負債に計上される「預り金」については次項をご参照ください

借入金はありません

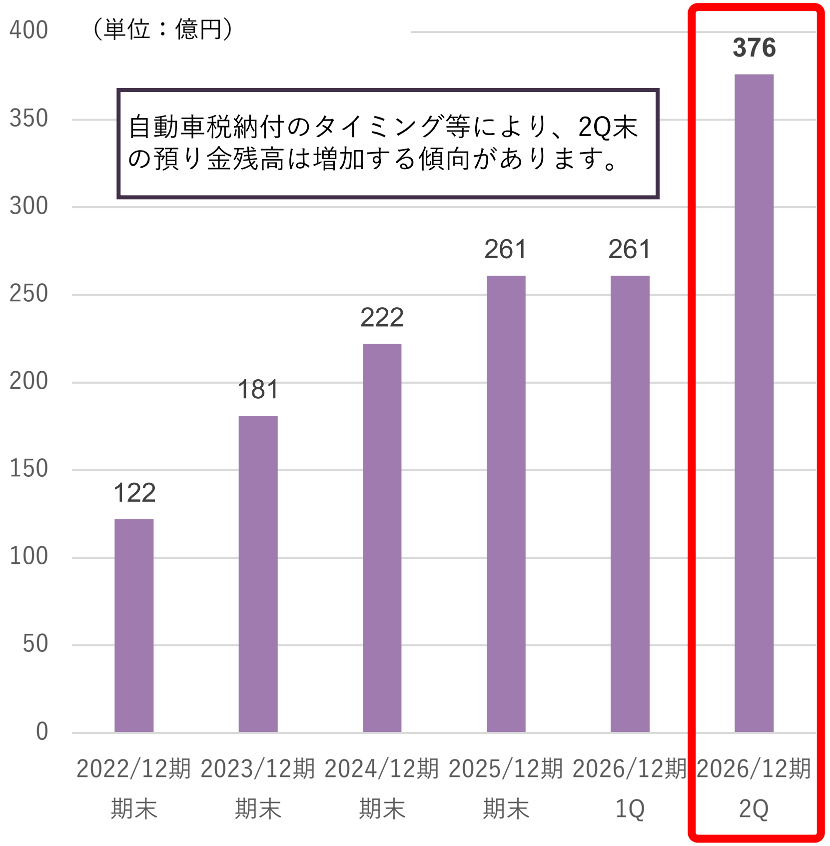
流動負債に含まれる預り金の変動により、表面上の自己資本比率は低く見えますが、当社実態としては安定的な財務基盤を維持しております。※次項をご参照ください。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

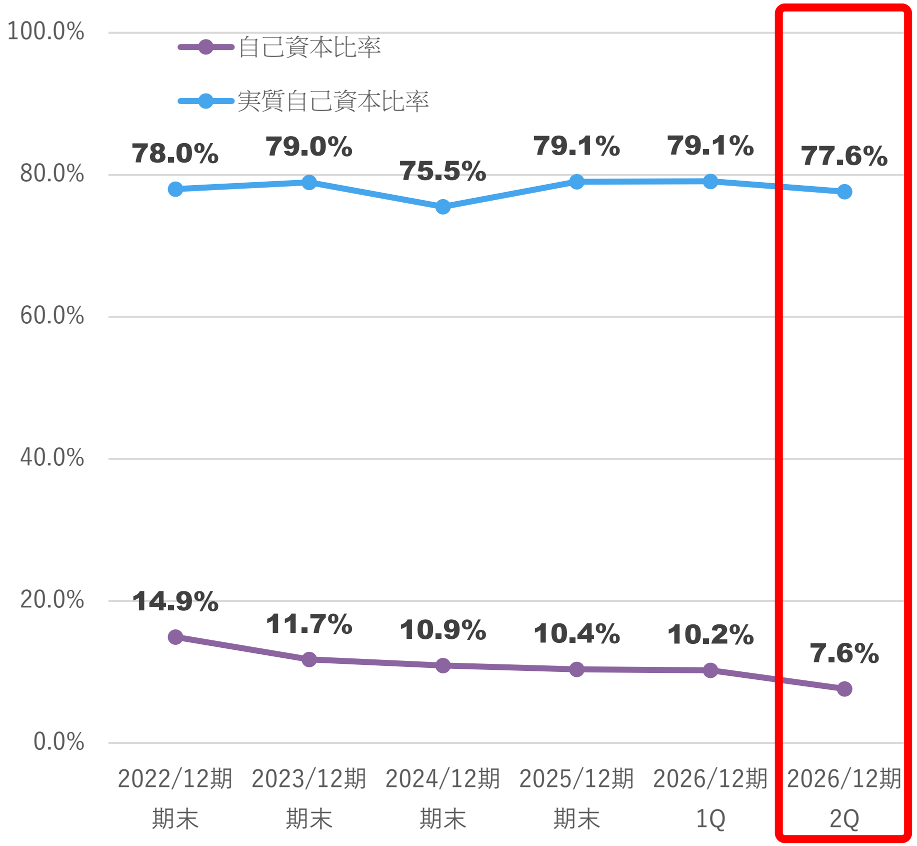
預り金の影響を除いた実質自己資本比率

当社の事業特性上、顧客企業への精算前の預り金が期末に滞留し、貸借対照表上の資産と負債が両建てで膨らみますが、これらは**1ヶ月以内に解消される一時的項目**です。それらの影響を取り除いた実質的な自己資本比率は下図のとおりです。

預り金の推移



自己資本比率の推移



実質自己資本比率
期間平均
78.0%

預り金の増加に伴い形式上の自己資本比率は低下しておりますが、預り金の影響を除外した実質自己資本比率は、引き続き高い水準で安定しております。

形式的自己資本比率
期間平均
11.0%

実質自己資本比率は、「（純資産－非支配株主持分）÷（総資産－預り金）」により算出しております。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

キャッシュ・フロー計算書

（金額単位：百万円）	2025/12期 2Q末	2025/12期 4Q末	2026/12期 2Q末	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,832	4,201	12,015	153.4%
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 16	▲ 37	▲ 373	-
フリー・キャッシュ・フロー	7,816	4,163	11,641	148.9%
財務活動によるキャッシュ・フロー	692	▲ 147	▲ 239	-
現金及び現金同等物の増減額	8,509	4,016	11,401	134.0%
現金及び現金同等物の期首残高	23,653	23,653	27,669	117.0%
現金及び現金同等物の期末残高	32,163	27,669	39,071	121.5%

主に、預り金の増加によるものです。
2025年12月末からの預り金の増加額は約115億円となっております。

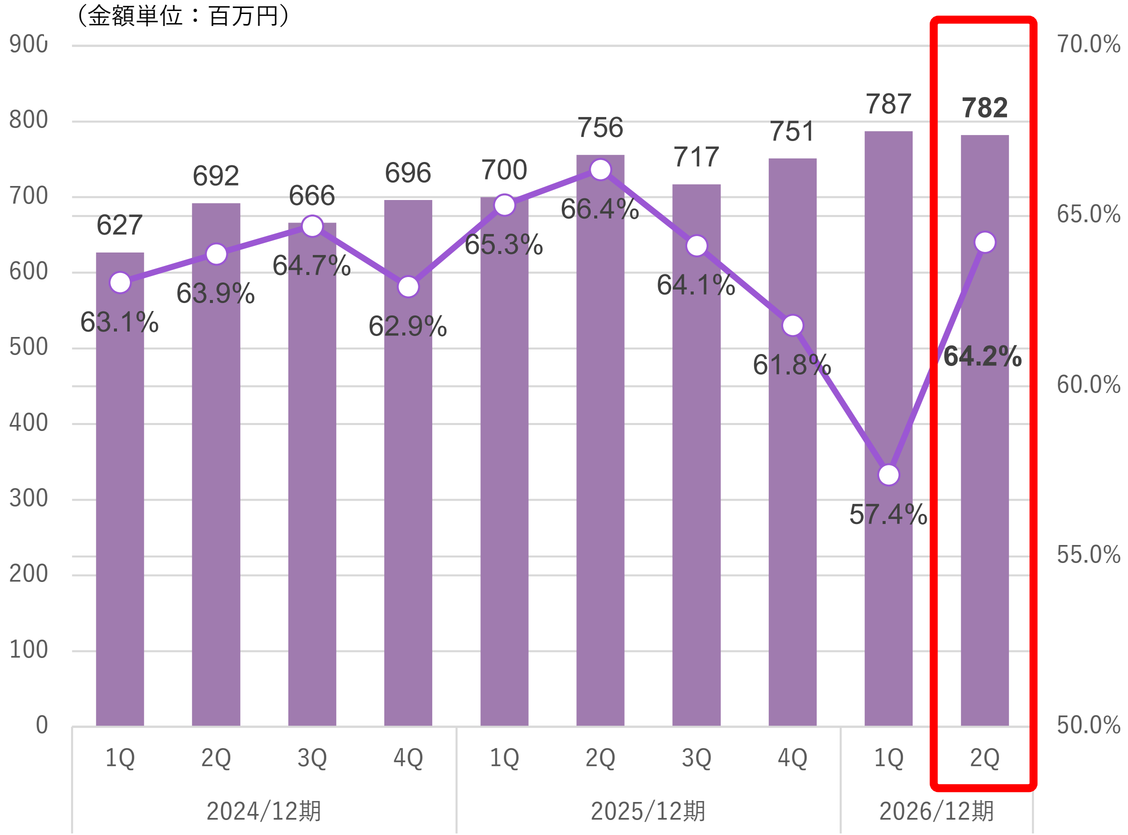
主に、定期預金の払戻と預入の差引によるものです。

主に、配当金の支払いおよび自己株式の取得によるものです。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

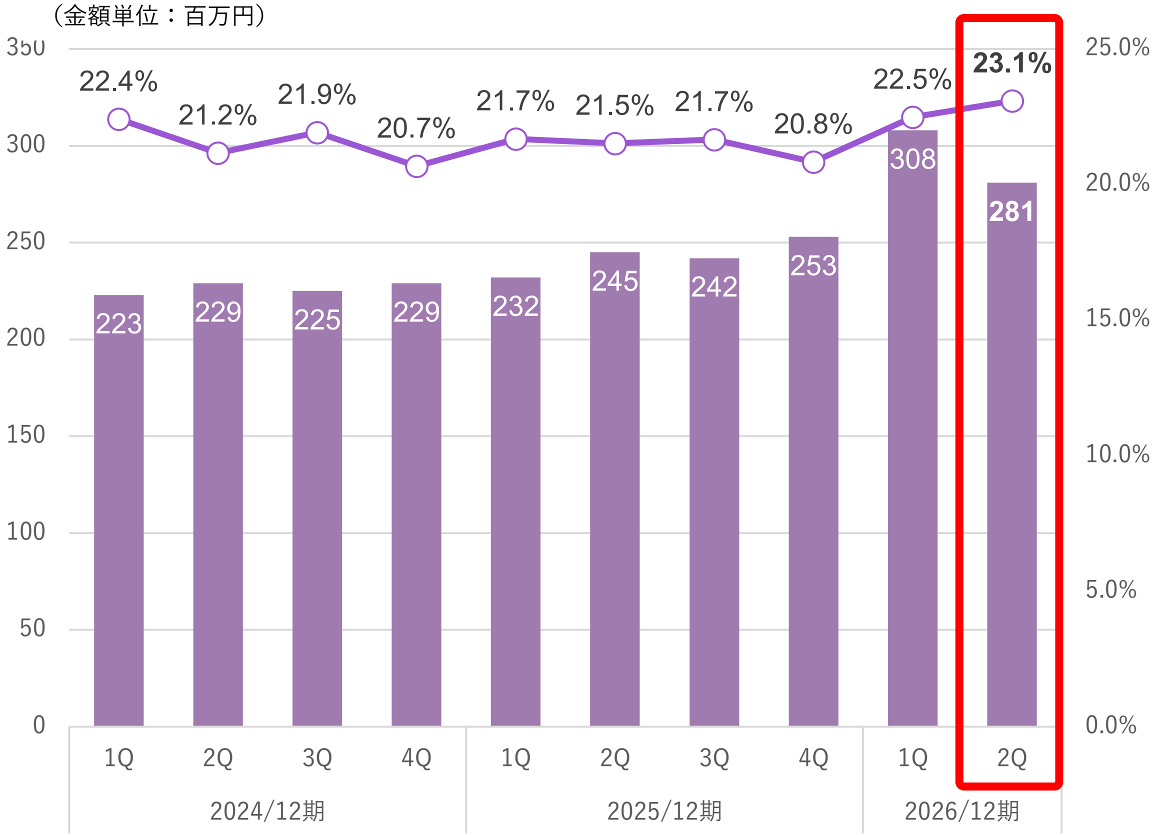
原価及び販管費の推移（四半期）

原価及び原価率の四半期推移



原価率は前年同期比2.2ﾎﾟｲﾝﾄ低下しました。主な要因は、外注先の常駐見直しによる減少です。なお、1Qは利益率の高い大型のスポット案件により原価率が低下しております。

販管費及び売上高販管費率の四半期推移

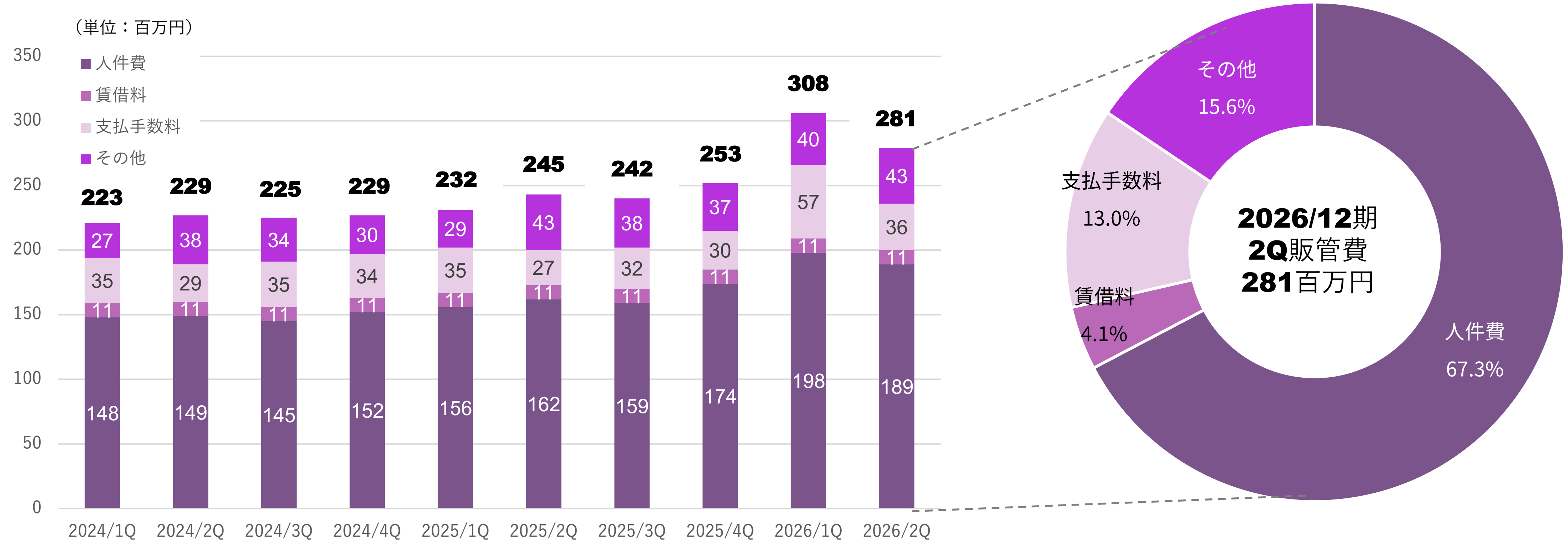


販管費の増加は、開発およびコーポレート機能強化のための人員増、有料版生成AIの全社導入、研修・育成制度の充実等によるものです。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

主要な内訳について

- **開発およびコーポレート機能強化**のための先行投資として人材採用が順調に進捗しました。
- また、有料版生成AI導入、研修・育成制度の充実等により販管費は増加しているものの、計画通りであり**前向きな増加と認識**しています。



2Qにおいては、1Qに比べ人員数は増加しておりますが、人件費および支払手数料は1Qに計上された大型スポット案件に連動する費用や一時的な費用の影響がなくなったことから減少しております。
なお、人材採用や組織基盤強化に向けた投資は計画通り進捗しております。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

人員数

- 第2四半期末の人員数は104名（連結、正社員＋嘱託社員）となっています。
- 中期経営計画2年目となる2026年12月期の戦略を着実に実行するための基盤として、計画に沿って採用を積極化しております。

- 第2四半期末人員数104名

（参考）前年同期比

（単位：人）	2025年 2Q末	2026年 2Q末	増減
営業	31	31	0
システム	27	31	4
業務	18	18	0
管理・内部監査他	13	16	3
グループ会社	7	8	1
合計	96	104	8

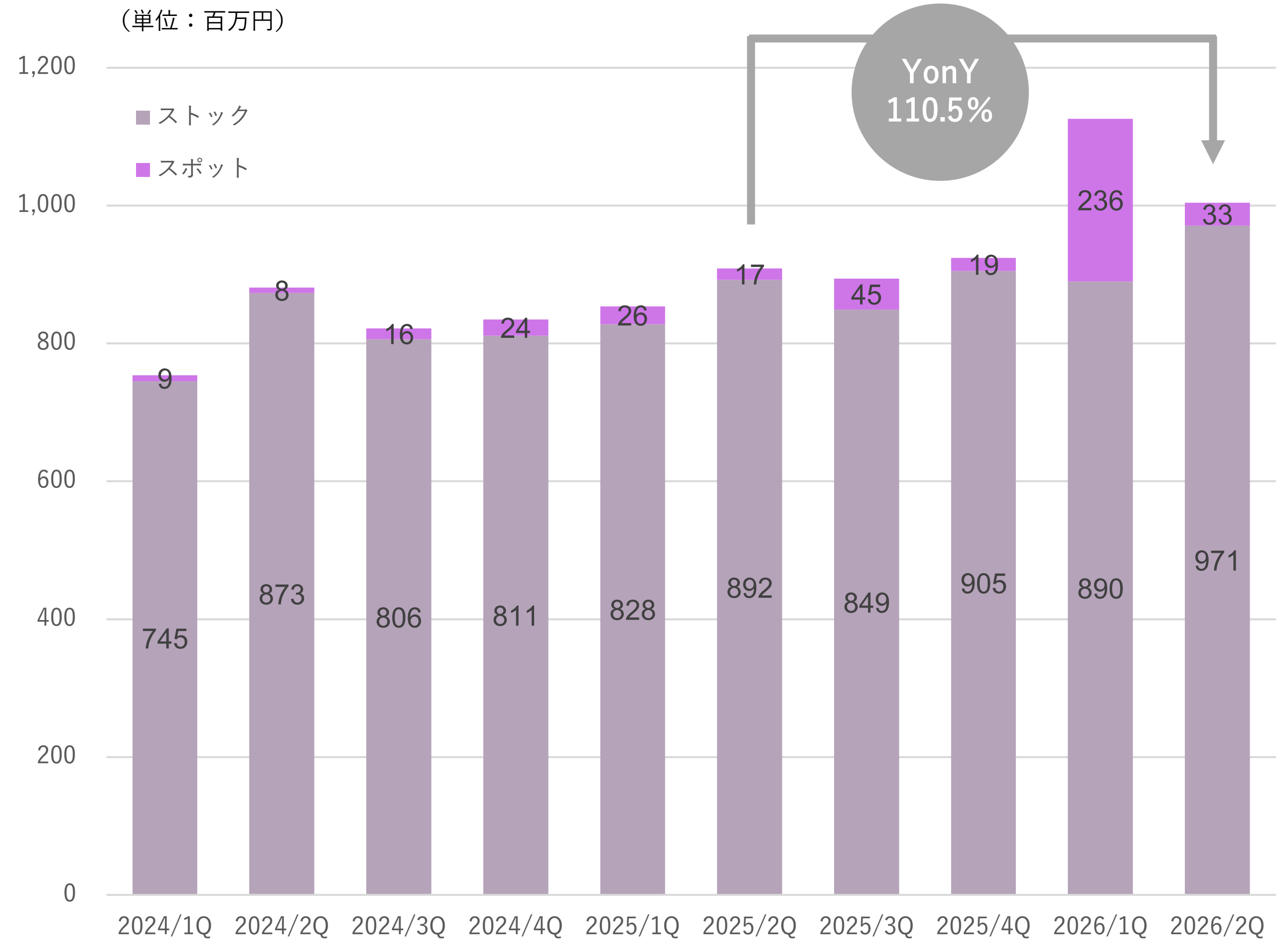
- 採用に加えて、人的資本としての社員が活き活きと活躍できる環境づくりにも注力しています
- 「ストレスフリーカンパニー2026」を受賞
- 新卒採用を含めて、継続的に人材の拡充を推進しています

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

セグメント別実績

決済支援事業

ストック売上とスポット売上の四半期推移



前年同期比：110.5%

前四半期比：89.2%

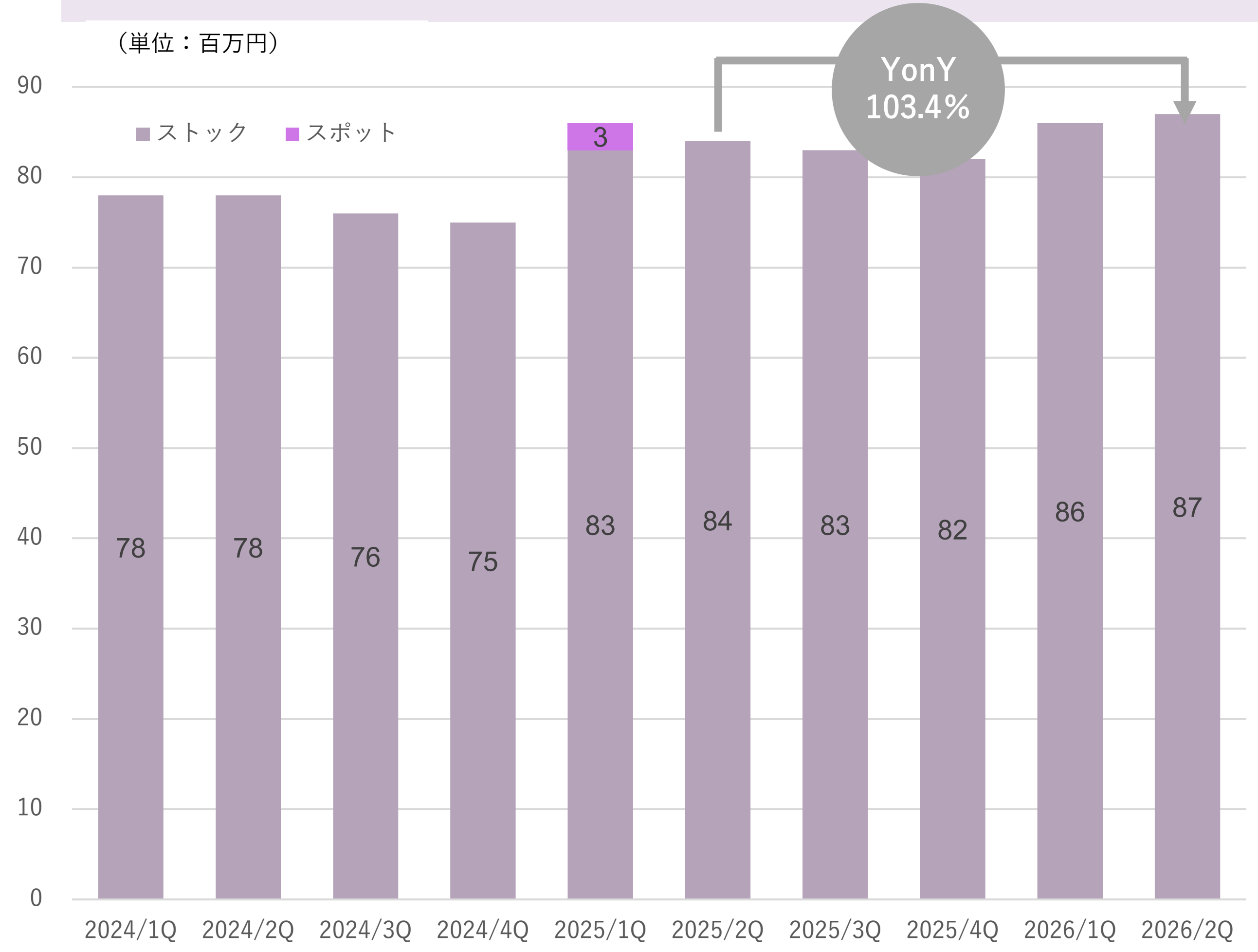
売上高に占める構成比：82.5%

- PayBは自動車税納付のタイミングも重なり過去最高の取扱件数となりました。
- クイック入金は好調な株式市況や人気銘柄のIPO等により件数が増加しました。
- 1Q比では89.2%となりましたが、1Qの大型スポット案件による特殊要因を除けば、着実に成長しております。
- 決済回数にもとづくストック収入が構造的に積み上がる当社のビジネスモデルにより、下半期に向け着実に推移しております。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

送金支援事業

ストック売上とスポット売上の四半期推移



前年同期比：103.4%

前四半期比：100.5%

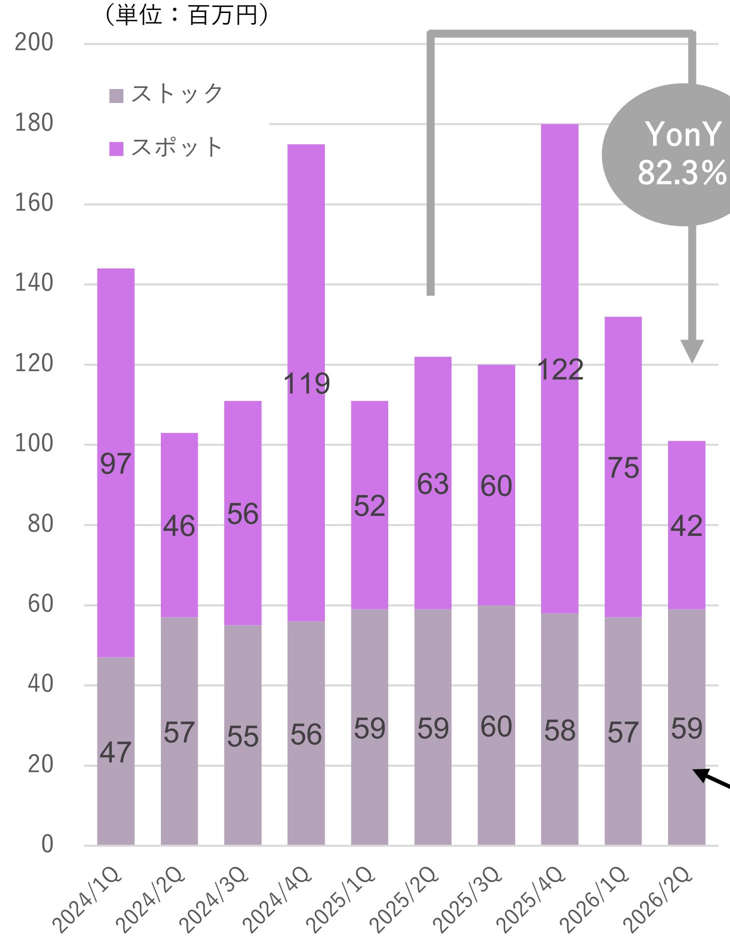
売上高に占める構成比：7.2%

- PayB for Businessは、管理物件の公共料金支払いを行う不動産業界を中心に顧客獲得が進んでいます。
- 中小規模向けのPayB for Businessと、大規模事業者向けの公共料金支払サービス(BPO)をセットで提案し、お客様のニーズに合わせ、営業効率の向上に取り組んでいます。
- 2026年8月以降、PayB for Businessの申込をオンライン化し、不動産業などのニーズを捉え、さらなる成長加速に向けた取り組みを進めています。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

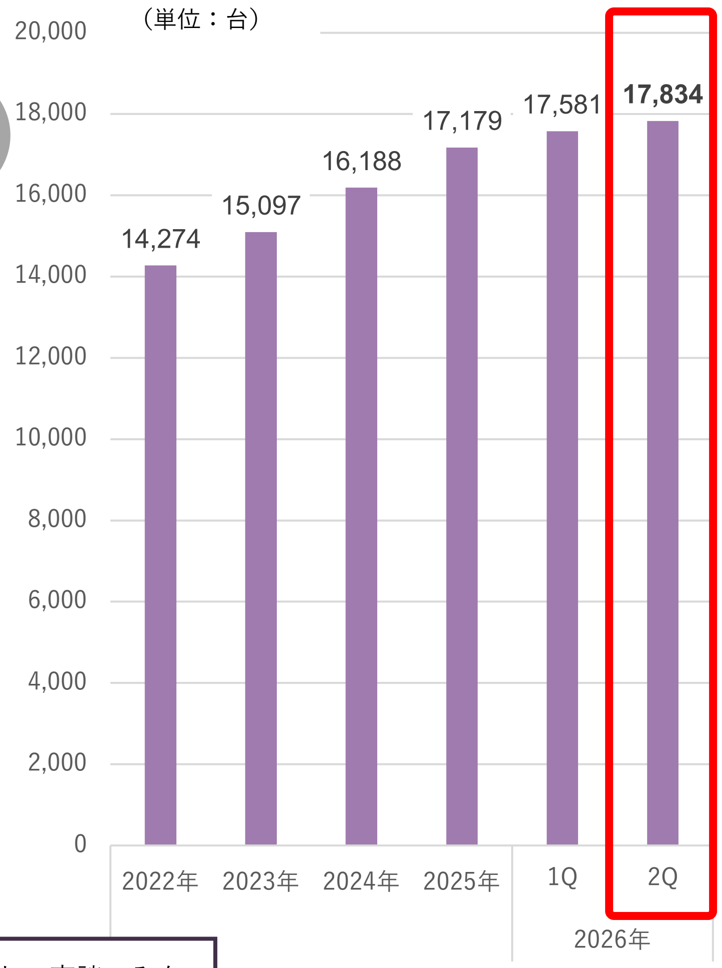
セグメント別実績　端末事業

ストック売上とスポット売上の四半期推移



当2Qは、新機種にかかる認証手続き等が遅れ、商談のみを進めている状況であるため、スポットの伸びが低くなっております。

端末販売台数(累計)

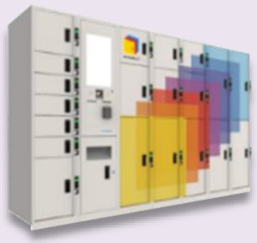


前年同期比：**82.3%**

前四半期比：**76.3%**

売上高に占める構成比：**8.3%**

- 端末事業では、JR東日本のマルチエキューブをはじめ、自販機、コインロッカー、コインパーキング等に特化し、生活の様々なシーンで当社グループの決済端末が導入されています。
- 1-2Qに新型機種の市場導入を予定しておりましたが、認証手続き等に時間を要しており、市場投入が遅れております。
- 新型機種の商談は着実に進んでおり、主要な販売パートナー経由で見込み客を積み上げております。

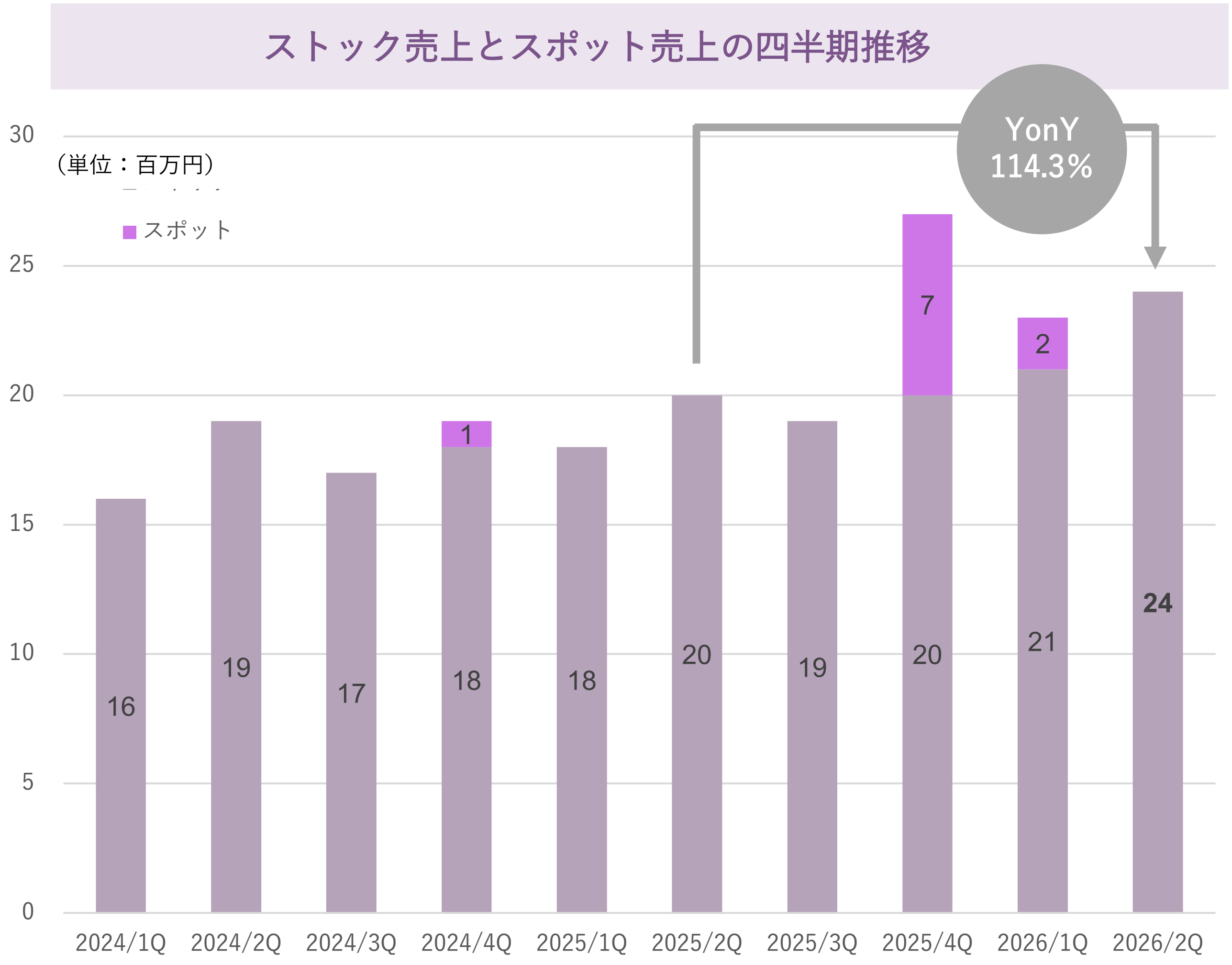


JR東日本スマートロジスティクス様
マルチエキューブ

JR東日本様
STATION WORK

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

その他の事業



前年同期比：113.0%

前四半期比：100.3%

売上高に占める構成比：2.0%

- その他事業には、口座振替、請求収納、ファイナンス取次などが含まれます。
- 影響は軽微ながら、安定的にストックを積み上げております。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

02 ビジネスアップデート

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

2026年12月期　戦略全体像

中期経営計画2年目として、国内決済領域における収益基盤を拡大し、成長を加速してまいります。

決済件数が積み上がるプラットフォームを基盤に、ストック収益と安定キャッシュを創出し、
成長投資と株主還元に循環させることで中長期のEPS成長を実現してまいります。

フロント・現場の力

戦略	テーマ	内容
戦略1	収益基盤	メリハリをつけたソリューション戦略
戦略2	成長ドライバー	次世代サービス構築への着手と加速
戦略3	利益率・競争力	QCDのさらなる向上に向けた開発・運用の強化
戦略4	効率化	全社視点での業務最適化への取り組み
戦略5	人的資本	社員が活き活きと活躍できる環境づくり
戦略6	資本戦略	コーポレート戦略機能の強化（IR/M&A/資金運用等）

スタッフ・バックオフィスの力

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

2026年12月期　具体的な施策の取り組み状況①

戦略	重点テーマ	価値創造の考え方	主な取り組み状況
戦略1 収益基盤	メリハリをつけた ソリューション戦略	● 成長性・収益性の観点から、強化・縮小・撤退するソリューションを明確化 ● 注力分野に経営資源を集中し、売上成長率の向上と営業効率の改善を推進	● 伸び悩むサービスから、新規サービスの立上げや成長サービスへリソースをシフト ● PayB for Businessについては、不動産業界を中心に拡販強化 ● BillingBOXは公益企業での導入実績づくりに注力
戦略2 成長ドライバー	次世代サービス構築への 着手と加速	● 将来の成長ドライバーとなる新規サービス企画を強化 ● 既存事業に依存しない収益の柱を創出し、中長期成長を下支え	● オンリーワンサービスとして成長してきたクイック入金の進化版として、次世代クイック入金（ネット銀行Hub）の企画推進 ● 銀行、損保会社等の既存の大手接続先金融機関に対して、企画提案活動を強化
戦略3 利益率・競争力	QCDのさらなる向上に向けた 開発・運用の強化	● QCDの可視化により、開発・運用の効率性と品質を両立 ● サービス拡大に耐えうるスケーラブルな開発体制を構築	● 開発部の統合と運用部・基盤部との強連携によりシステム部門の高度化・効率化 ● 開発・運用プロセスへの積極的な生成AI活用により、開発高速化、自動運用を推進

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

2026年12月期　具体的な施策の取り組み状況②

戦略	重点テーマ	価値創造の考え方	主な取り組み状況
戦略4 効率化	全社視点での業務最適化への取り組み	● 全社最適の観点で業務プロセスを再設計 ● IT・AI活用により、間接業務コストの増加を抑制	● 5月より生成AIを全社導入し、社内横断プロジェクトを通じて業務への組み込み活用を加速 ● 社内基幹システムの再構築検討に着手
戦略5 人的資本	社員が活き活きと活躍できる環境づくり	● 人材育成と評価制度を連動させ、個人と組織の成長を両立 ● 定着率向上により、採用・教育コストの効率化を推進	● 昨年度末に役職別役割定義表を策定し、職位別に期待する役割を言語化 ● 新年度より新しい評価制度および新評価シートを導入 ● 今年度の階層別研修計画の策定と実施
戦略6 資本戦略	コーポレート戦略機能の強化（IR/M&A/資金運用等）	● 事業成長を適切に市場へ伝えるため、成長ストーリーを明確化 ● IR、M&A、資金運用を通じて、企業価値の向上を推進	● 「成長可能性資料」、「決算説明資料」等を通じ、投資家の皆様にご理解いただけるIR活動の強化 ● 四半期ごとに投資家向け事業説明会を実施 ● 戦略的資本提携・M&A推進を責任組織化し、検討に着手

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

2026年事業方針の進捗

「面積×密度」の成長モデルにより、将来の取扱件数とストック収益を着実に拡大しております。
いっそう強固な収益モデルを構築し、持続可能な利益成長を目指してまいります。

KPI ①		KPI ②	
面積（ネットワーク・カバレッジ）		密度（ストック化の進行）	
PayB提携金融機関数*（累計）	PayB提携収納機関数（累計）	ストック収入（連結・百万円）	ストック比率
88 ↗ 90（内定先含む）	18,745 ↗ 19,042（＋297）	2,046 ↗ 2,198	92.5% ↘ 84.9%
1Q末（2026年3月末）との比較		前年同期（2025年1-6月）との比較	

1Qに大型のスポット案件により低下しましたが、2Qの3ヶ月では93.8%と平常化しています。
また、84.9%は適正レンジ内と認識しています。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

トピック

PayB取扱い金融機関の拡大

当第2四半期も多くの金融機関との連携を推進いたしました

「PayB」は、納付書や請求書のバーコード・QRコードをスマートフォンで読み取り、いつでもどこでも支払いができる決済サービスです。
オリジナルアプリに加え、**金融機関アプリや国内主要Payアプリへの機能提供、ATMへの機能搭載**を通じて利用シーンを拡大しています。
ATMでは、eL-QRやバーコードを読み取り、金融機関のキャッシュカード（個人・法人）により税金や公共料金、通販代金などの支払いが可能です。

横浜銀行

横浜銀行との提携は、2024年のPayB登録口座対応を起点に、ATMでの払込票支払い、さらに自行アプリ「はまぎん365」へのPayB実装へと発展いたしました。
PayBを当社アプリとの連携だけにとどめず、様々な銀行チャネルに組み込むことで預金者の利用機会拡大を実現し得る提携と位置づけております。

中国銀行

ATM PayB

中国銀行と提携し、店舗内ATM**約400台**で「ATM PayB」を提供することになりました。

ATMを新たな決済チャネルとして活用することで、銀行内業務の効率化を図るとともに、PayBの利用機会拡大と取扱件数の増加を目指します。

鹿児島銀行

ATM PayB

鹿児島銀行のATMにPayBを導入し、サービスを開始いたしました。

税金・公共料金等の収納機能を強化し、顧客利便性向上とATMチャネルの付加価値向上を実現しています。

農林中央金庫

ATM PayB

農林中央金庫と提携し、全国**約1万台**のJAバンクATMへATM PayBを提供することになりました。

PayBの利用基盤を大幅に拡大するとともに、顧客利便性向上と取扱件数増加を推進いたします。

百五銀行

ATM PayB

百五銀行の新型ATMへPayB機能を提供することになりました。

eL-QR決済に対応し、顧客利便性向上とATMサービスの付加価値向上に貢献いたします。

※1 eL-QRは地方税共同機構の登録商標です。 ※2 QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

Billing System
ビリングシステム株式会社

03

通期見通し

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

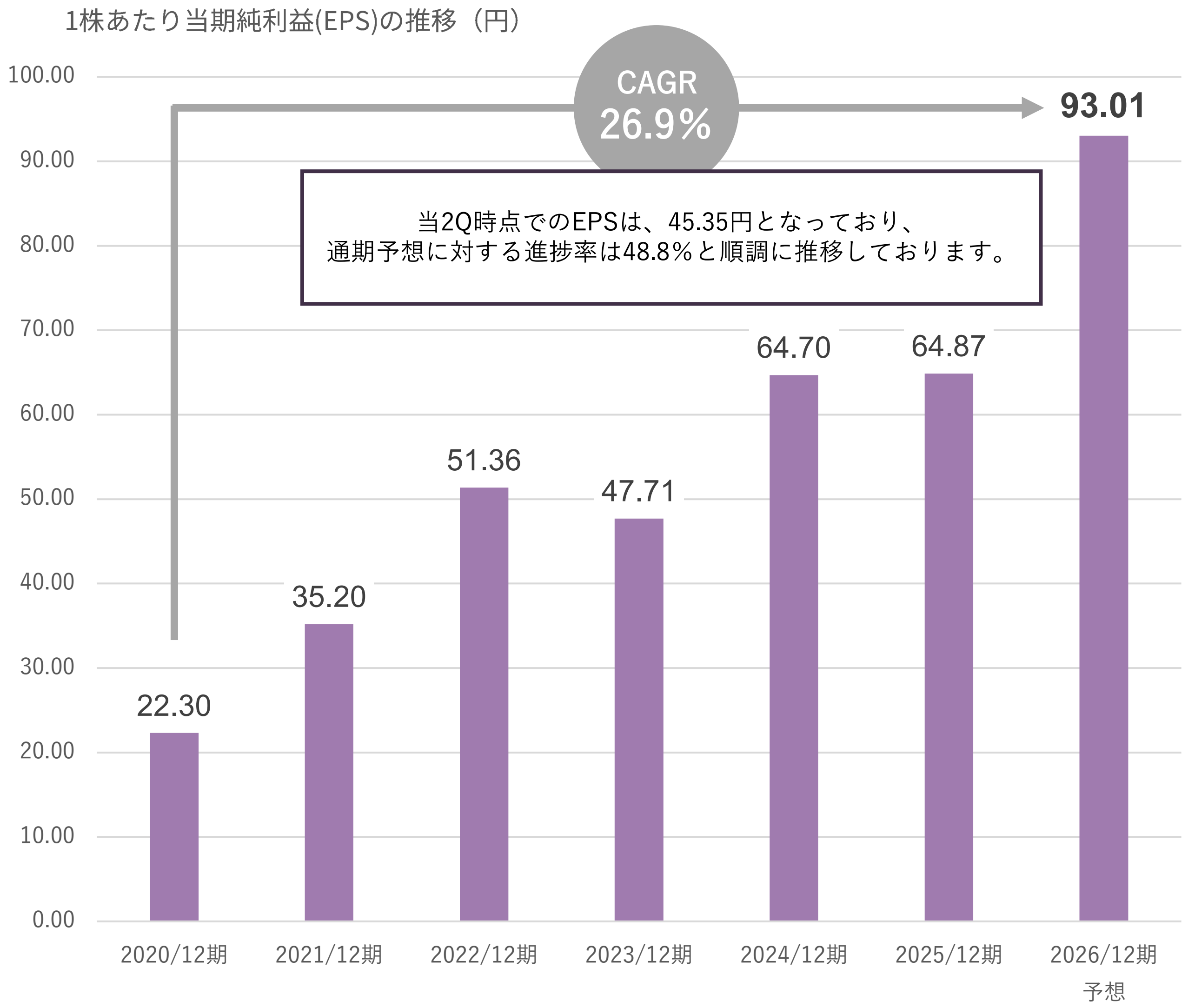
2026年12月期　業績見通し

- 通期計画に対しては、概ね計画通りに推移しております。
- 業績予想は2026年2月13日に公表した内容から変更しておりません。

（金額単位：百万円）	2025/12期 2Q累計実績	2026/12期 2Q累計実績	前年同期比	2026/12期 通期業績予想	進捗率
売上高	2,211	2,589	117.1%	5,607	46.2% (前年同期の進捗率は46.1%)
売上総利益	754	1,019	135.1%	–	
売上総利益率	34.1%	39.4%	+5.3ポイント	–	–
販管費	477	589	123.4%	–	–
営業利益	277	430	155.3%	929	46.3% (前年同期の進捗率は37.0%)
営業利益率	12.5%	16.6%	+4.1ポイント	–	
経常利益	278	444	159.4%	926	48.0% (前年同期の進捗率は37.3%)
経常利益率	12.6%	17.2%	+4.6ポイント	–	
当期純利益	175	283	161.3%	584	48.4% (前年同期の進捗率は37.7%)
当期純利益率	7.9%	10.9%	+3.0ポイント	–	
EPS（円）	27.93	45.35	162.3%	93.01	48.8% (前年同期の進捗率は37.8%)

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

1株あたり当期純利益(EPS)の推移



EPS年平均成長率：26.9%

- 当社のビジネスモデルは、**決済件数・取扱高が着実に積み上がり**、売上成長率10-15%（数年平均）を安定的に実現するモデルです。
- 既存顧客内での利用拡大、新サービス・新チャネルの横展開、そしてキャッシュレス決済の拡大という時代背景を受け、**蓋然性の高い成長シナリオ**を描いています。
- また、スケール効果により共通費の負担が逓減し、ストック収入比率の上昇と相まって、構造的に収益性が向上していきます。
- この結果、**年平均成長率26.9%という高いEPS成長**を実現しています。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

配当計画

連結配当性向35％とDOE（株主資本配当率）3％を目安として、安定性と業績連動を両立した還元を目指します。

当期は1株あたり32.50円を計画

成長投資への適切なキャピタルアロケーションとバランスを図りつつ、最適な資本構成を維持し、長期的な企業価値向上を通じて株主の皆様の期待に応えてまいります。

	2022/12期（実績）	2023/12期（実績）	2024/12期（実績）	2025/12期（実績）	2026/12期（予想）
1株あたり年間配当金（円）	10.00	12.00	22.50	25.80	**32.50**
配当性向（%）	19.5%	25.2%	34.8%	39.8%	35.0%

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

キャッシュアロケーションの基本方針

創出したキャッシュは、まずは成長・戦略投資に配分し、その成果を株主の皆様へ還元してまいります。

キャッシュの獲得

営業キャッシュフロー
継続的な利益成長から得られる営業CFを主軸

保有資産有効活用
預り金と対応する預金を除いた自己資本キャッシュを対象に、財務健全性を損なわない範囲で有効活用

有利子負債活用
財務健全性を前提としつつ、必要に応じて、補完的な活用も検討

戦略資金
50〜80億円
（FY2026-FY2030）

獲得キャッシュを単一の原資とし成長投資を最優先に配分

成長投資の進捗と財務状況を踏まえ、配分を機動的に見直します

資本配分方針

オーガニック成長投資

人材投資	事業拡大投資（サービス機能強化）	戦略投資（新サービス企画）	M&A（選択的）	配当	自己株式取得
10億円	10〜20億円	15〜30億円		15〜30億円	

最優先 — **成長・戦略投資**

継続的に実施（配当） / 機動的に実施（自己株式取得） — **株主還元**

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

中長期の経営ガイドライン

① 売上高成長

決済件数・取扱高の構造的な積み上がり
売上成長率：10-15%（数年平均）
- 既存顧客内での利用拡大
- 新サービス・新チャネルの横展開

② 収益性向上
（本業オペレーション）

スケール効果と売上ミックス改善
- 共通費の薄まり
- ストック収入比率の上昇

③ 資産効率向上
（決済インフラ特性）

現預金等を活かした営業外収益
- 決済プラットフォーム特有のフロート
- 現預金等の成長投資への活用

④ 資本効率向上

規律ある株主還元と資本政策
- 安定配当を前提
- 株価水準を意識した規律ある自己株式取得

景気循環に依存しにくい
再現性の高いEPS成長モデル

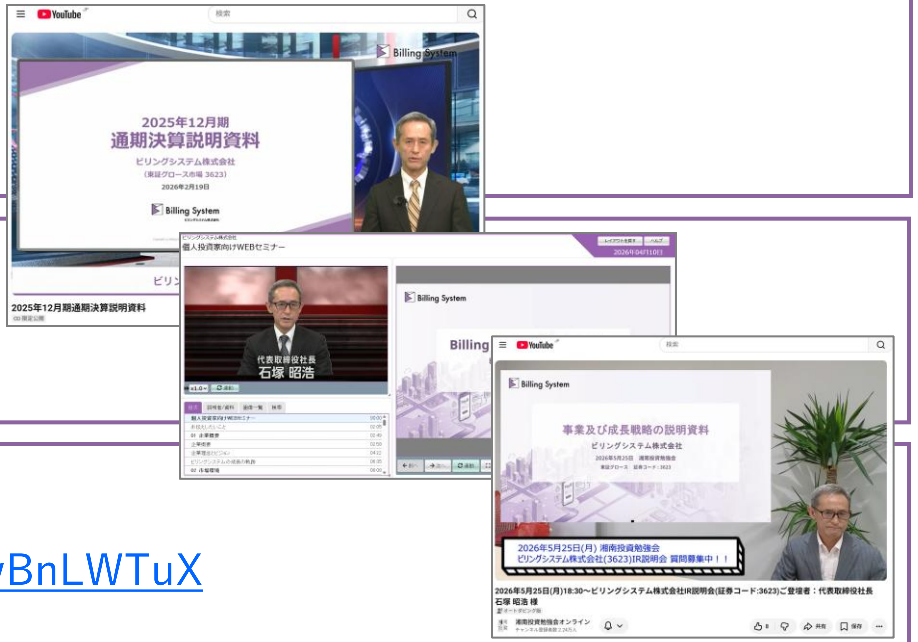
EPS成長率15%以上
（今後5年平均）

ROE
20 %程度
結果として目指す水準

お知らせ

投資家の皆様に、タイムリーかつ直接の説明を行い、株主との対話の機会を増やしてまいります。
当社ホームページより、アーカイブ動画をご視聴いただけます。

FY25	決算説明会動画を配信 https://youtu.be/hnfMJVNFvOc?si=WHXLVbr2gxKCLwd_
FY26 (4/10)	野村IR主催　個人投資家向けWEBセミナー https://webcast.net-ir.ne.jp/36232604/index.html
FY26 (5/25)	湘南投資勉強会主催　IR説明会（オンライン） https://www.youtube.com/live/eIYGI2diAfM?si=3kv2-zISwBnLWTuX
FY26 (8/22予)	神戸投資勉強会主催　IR説明会（大阪会場＋オンライン） https://youtube.com/live/OZC9WKAWbQs?feature=share



どなたでもご視聴いただけますので、
是非ご参加ください。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

04

Appendix

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

会社概要

会社名	ビリングシステム株式会社　（英文名：Billing System Corporation）
設立	2000（平成12）年6月5日
所在地	東京（本社）〒100-0011　東京都千代田区内幸町1-2-2　日比谷ダイビル13階 茨城（取手事務センター）〒302 - 0024　茨城県取手市新町2 - 2 - 16　ルックハイツ201号
資本金	1,237,988,666円（2025年12月末）
役員	取締役会長　江田 敏彦 代表取締役　石塚 昭浩 取締役　木幡 徹 取締役　長谷川 毅 取締役　住原 智彦 取締役　安孫子 和司 取締役（社外）　木﨑 重雄 常勤監査役（社外）　大林 幹司 監査役（社外）　山田 啓介（公認会計士・税理士山田啓介事務所　主宰） 監査役（社外）　中谷 浩一（森＆パートナーズ法律事務所 パートナー弁護士）
グループ会社	トランスファーネット株式会社　【連結子会社】 集金事務及び収納事務の代行事業　https://www.transfernet.jp/
	FinGo株式会社　【連結子会社】 キャッシュレス決済端末関連事業　https://www.fingo.co.jp/
	給与賞与株式会社　【非連結子会社】

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

経営理念とビジョン

決済基盤を軸とした新しいワークフローを提供し、お客様の利益を創出します

2030年 ビジョン

世界とつながる社会を決済で支える

国内外の取引増加で複雑化する決済業務を、安全かつ効率化なものにしていく

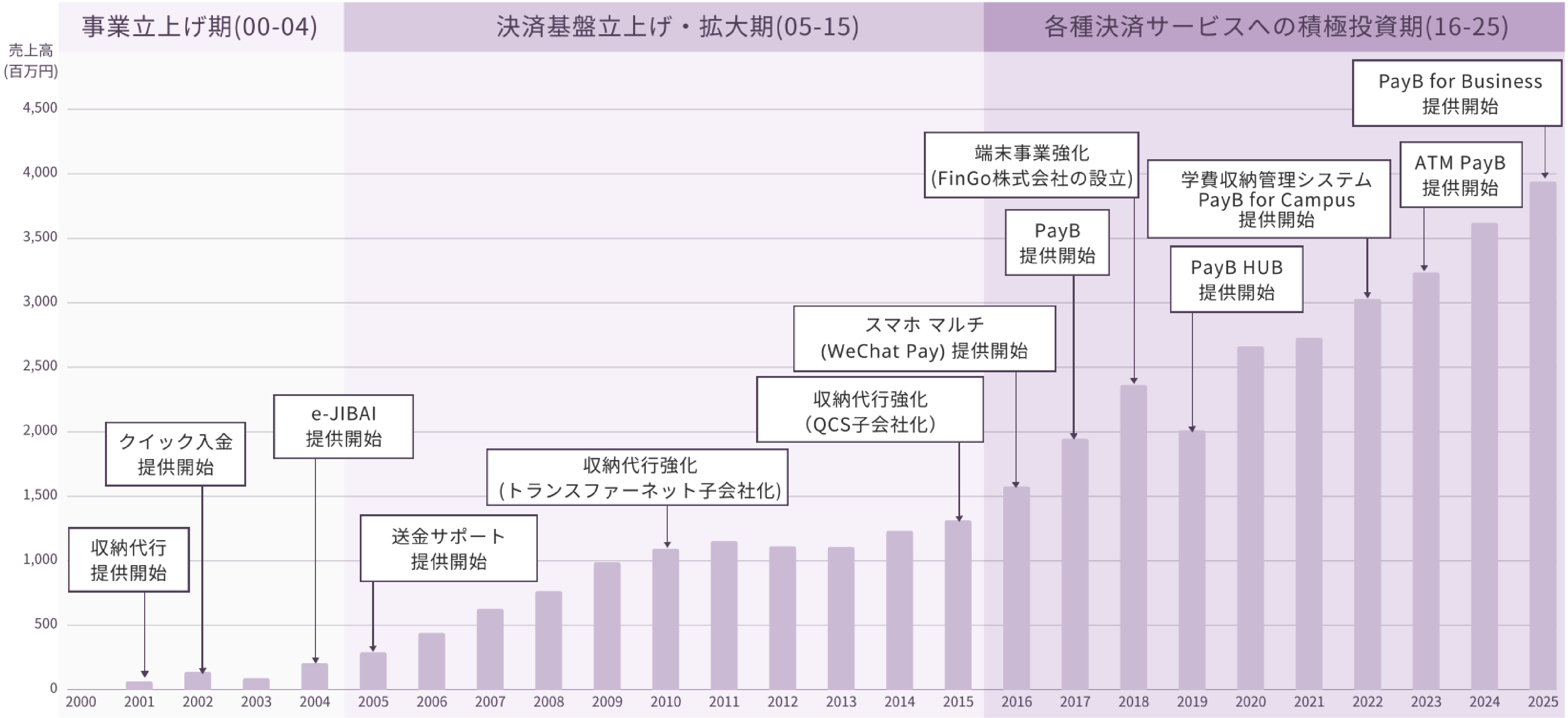
そのために、現在の基盤事業をさらに強固にし、新たな事業機会を捉える

目指す姿

1. 私たちは、創意工夫と相互の啓発を大切にし、誇りとやりがいを持てる環境を作ります
2. 私たちは、決済サービスを中核としつつ、その情報と分析を活かした新しい領域のサービスを提供し、お客様の成長と発展に貢献します
3. 私たちは、パートナー企業と共に相互のノウハウと強みを活かしたアライアンスを推進し、1+1＝∞の価値を創出します
4. 私たちは、ビジネスインフラとしての自覚を持ち、事業の安定的な運営と経営の透明性、健全性を堅持し、社会の発展に貢献します

成長の軌跡

公金・公共料金/金融機関連携などの実績を積み上げ、SLA・監査対応・制度対応などの構造的な競争優位性を形成



Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

ビリングシステムの事業機会

決済・送金を起点に、社会インフラからデータ活用事業へ拡張する成長モデル
（マルチ決済×業務DX×データ活用による持続的スケール）

STEP1
取扱高を安定的に獲得する領域

社会インフラ決済
- 税・公金・公共料金
- 請求DX（B2B / B2C）

定期的に発生する土台ビジネス

STEP2
スケールする収益基盤

業務・チャネルの集約
- オムニチャネル収納
- マルチ決済の一元化

接点の拡大に比例して収益機会が拡張

STEP3
競争優位を固定化する領域

プラットフォーム化
データ活用
- APIハブ／共同基盤
- データ×リスク管理

不可逆的な市場ポジションの獲得

事業の本質

単発の決済手数料ビジネスではなく、
顧客の業務フローそのものに入り込む**インフラ事業**

競争優位の源泉

- 公金・公共料金など「止まらない取引」を扱う信頼
- 一度入ると入れ替えしにくい業務インフラ
- 年々積み上がる取引データによる参入障壁

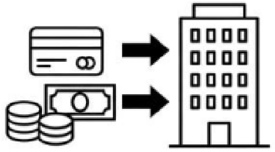
この3層モデルにもとづき、STEP1(短期)・STEP2(中期)・STEP3(長期)での企業価値向上を目指す

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

サービスラインナップ

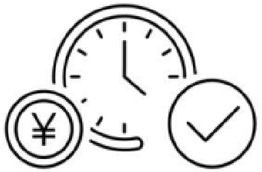
資金の受け渡しを代行するだけではなく、決済にまつわる業務フローを多面的に支えています

収納代行



請求主に代わってお客様の支払いの受け取り。クレジットカードやコンビニ決済など多様な決済を一元管理し、請求から入金確認までを自動で行う仕組みです。

クイック入金

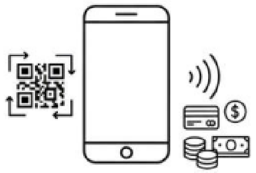


銀行とシステムをつなぎ、振込入金をリアルタイムで通知。
証券やFXなど、すぐに入金を確認したい業界で活用されています。24時間いつでもチェックできる安心のサービスです。

e-JIBAI

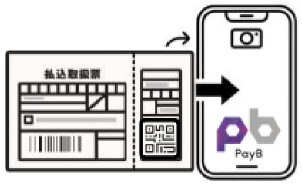
自動車の自賠責保険料を、全国の金融機関から安全に支払える仕組み。保険代理店や保険会社の入金管理をスムーズにします。社会インフラを支える決済ネットワークです。

スマホ マルチ



PayPayやWeChat Payなど、国内外のスマホ決済をまとめて導入。 観光地や店舗でのキャッシュレス化をサポートし、 より便利な支払い体験を実現します。

PayB

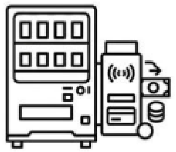


納付書や請求書に印刷されているバーコードやQRコードをスマホで読取り、いつでもどこでも簡単に支払いができるアプリ。
紙で受け取る請求書でも手軽でスマートな決済を可能にします。

Multipayオンライン

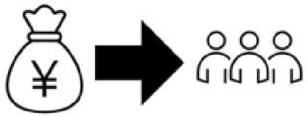
WebサイトやECサイト向けのQR決済サービス。
海外の主要ブランドに対応し、ネット上の取引を安全・スムーズに支えます。

キャッシュレス決済端末



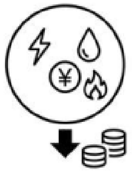
電子マネーやQRコード、カード決済を1台で対応。
自動販売機や無人店舗でのキャッシュレス化を実現します。
現金に触れない新しい購買体験を届けます。

送金サポート



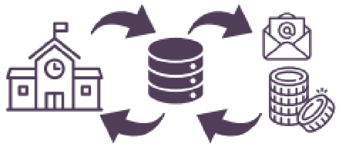
企業の給与振込や取引先への送金を代行。
大量の振込作業をまとめて処理し、 企業の事務を効率化します。

公共料金支払代行



電気・ガス・水道などの公共料金をまとめて支払い。
支払データを自動で管理し、
企業や自治体の経理負担を軽減します。

学費収納管理システム

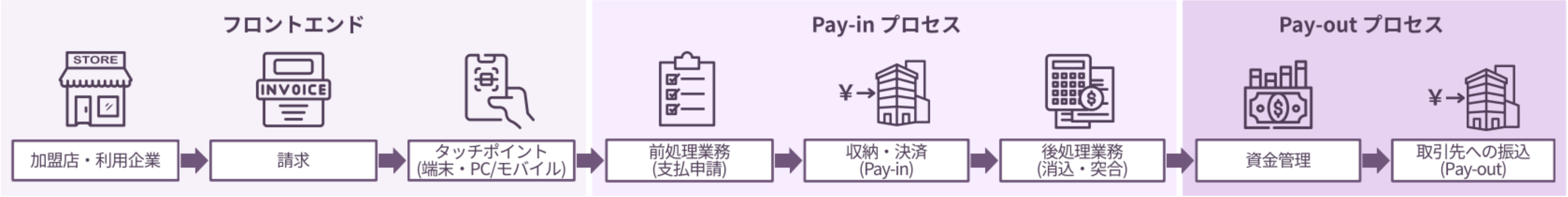


学費収納管理システムは入学金や授業料等をペーパーレス且つキャッシュレスに請求・収納ができる学校法人向けDXサービス。
季節性の事務負荷を大幅に軽減します。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

決済バリューチェーンにおける当社の役割　事業セグメント

「情報の生成 → 資金の受入 → 照合・管理 → 資金の分配」という情報と資金の流れです。
当社はこの一連の業務を統合的に担い、業務効率化にとどまらない付加価値を創造しております。



①　決済支援事業*

事業者・自治体が顧客から代金を回収するための
請求～支払(収納)～入金確認・消込までの業務プロセスを一体で支援する事業

②　送金支援事業

回収した資金を、事業者の業務ルールに従って
管理・分配し、取引先等への送金を支援する事業

③　端末事業

決済・送金プロセスの起点となる
加盟店・利用者との接点を補完するための周辺事業

④　その他事業

決済・送金を通じて得られるデータを活用した分析・業務効率化等の付加価値サービス

*本資料における「決済」＝収納を含む業務プロセス全体

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

セグメント区分の変更　決算説明資料等でのセグメント

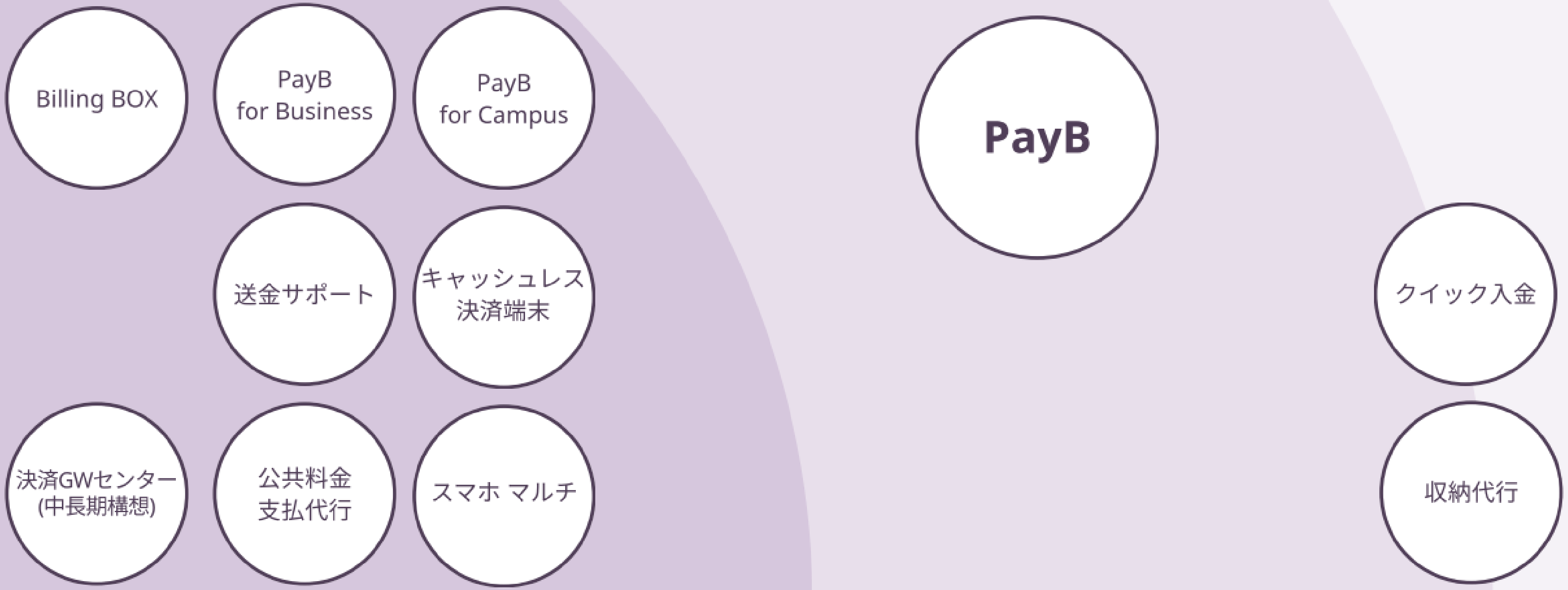
決済支援業務を主軸としながら決済バリューチェーンを拡大していくため、今後は以下の4つのセグメントに再編成し、戦略および施策等を報告します。

決算説明資料等での売上内訳（Before）	変更後（After）	
クイック入金 収納代行（PayB含）	決済支援事業	事業者・自治体が顧客から代金を回収するための請求～支払（収納）～入金確認・消込までの業務プロセスを一体で支援する事業
公共料金 送金代行等	送金支援事業	回収した資金を、事業者の業務ルールに従って管理・分配し、取引先等へ送金する業務を支援する事業
キャッシュレス端末	端末事業	決済・送金プロセスの起点となる加盟店・利用者との接点を補完するための周辺事業
ファイナンス他 その他	その他事業	決済・送金を通じて得られるデータを活用した分析・業務効率化等の付加価値サービス

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

事業ポートフォリオ

当社の売上高成長は、収納代行という単一サービスから出発し、
顧客の業務フローに沿った市場拡張の結果として現在のポジションを形成
コアサービスで得た収益をPayBを主軸とした成長投資に振り向け、ポートフォリオを進化させていく



導入期（中長期オプション）	成長期（当面の集中領域）	成熟期（安定収益）
既存顧客・基盤を活かせる将来成長の中核 横展開の再現性が最も高い領域	決済を起点に周辺業務へ拡張可能な基盤となる領域	将来の成長投資の原資を稼ぐ領域

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

競合環境と当社の戦略的ポジショニング

EC決済代行・ペイメントゲートウェイ
決済代行・収納代行会社

競争軸 EC・オンライン決済特化、決済処理量、API利便性などで競合する可能性あり

独自性 しかし当社は、EC特化ではなく、**金融機関・公共・業務系決済**に圧倒的な強みを有しており、当該分野では競合しません。

公共・金融インフラ
大手金融SIer

競争軸 勘定系親和性、大規模・長期SI、基幹システムなど大手金融SIerが乱立

独自性 当社は、重厚SIではなく、**横断的HUBとそれに付随するSIを提供。**大手SIerとは補完関係にあり、競合しません。

電子マネー・Pay事業者
電子マネー事業者、QRコード決済事業者

競争軸 利用者基盤、ブランド力、ポイント経済圏など強豪ひしめく環境

独自性 一方で当社は、B2B向けに**複数Payを束ねるHUB**を提供。PayBにおいては、税公金収納を他社Pay事業者に機能提供するなど、独自のポジションを確保しております。

請求・業務DX / SaaS
会計ソフトウェア/SaaS、フィンテックプレイヤー

競争軸 請求～会計UX、バックオフィスDXの効率化という機能で競合するように見えますが…

独自性 当社は、管理ソフトではなく、**決済実行・金融接続**を担い、それらの事業者に機能提供するなど連携余地が大きいと考えております。

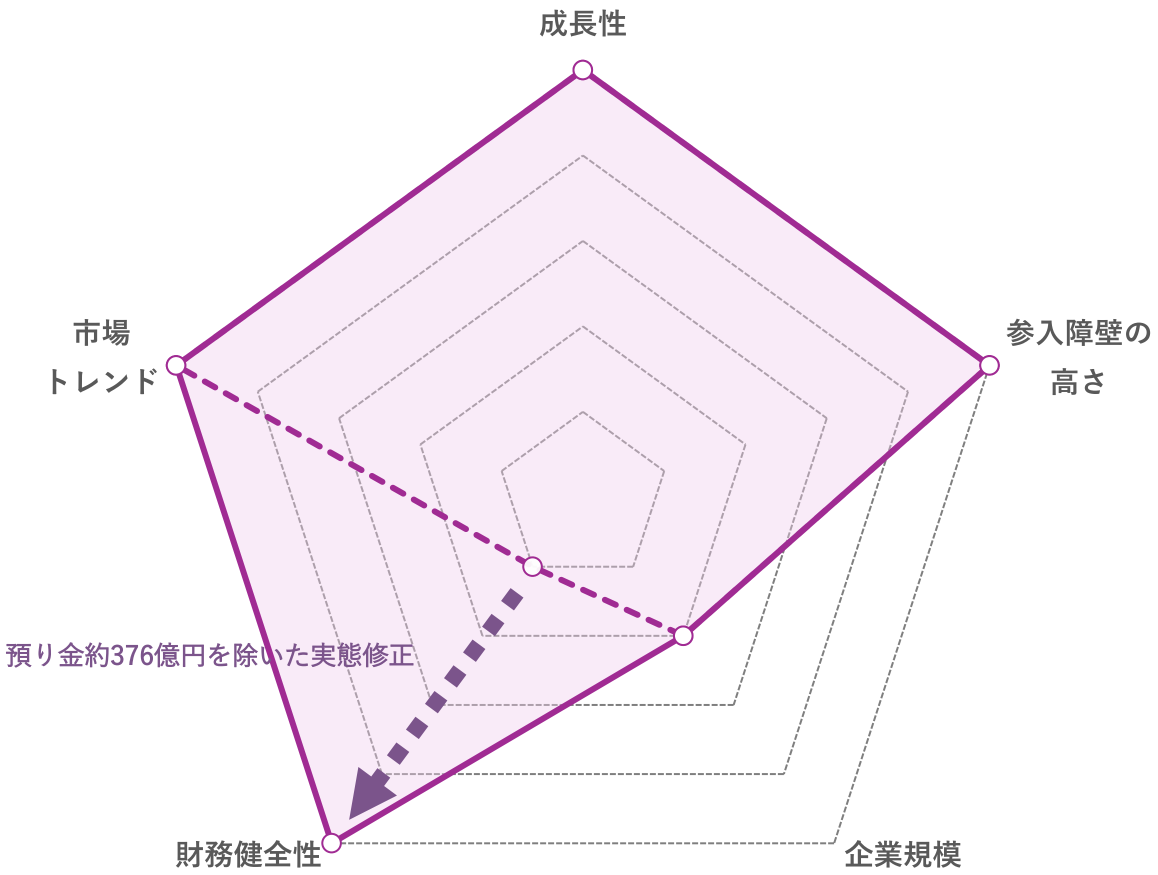
決済HUB × 業務プロセス組込み
当社独自の競争ポジション

当社独自のポジショニング

- 単一の直接競合はなく、各領域に部分競合が存在する構造となっております。
- 「競争の真ん中」ではなく、あらゆる決済を支える中立なHUBとして、独自のポジションを確保しております。
- 実際に、競合プレイヤーが同時に当社の顧客・パートナーにもなっています。
- 決済の複雑化・多様化が進むほど、当社のポジション価値は高まります。
- 参入障壁が高いため、模倣されにくく、当社のインフラを起点とした提携関係を構築しております。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

財務基盤や財務健全性の補足説明



▼ファンダメンタルズ評価の主な観点と各項目に対するファクト

	同業界のフィンテック上場各社との比較	ファクト
成長性	◎	同業界のフィンテック上場各社との比較では、売上成長率・利益成長率・EPS成長率ともに高水準です。
参入障壁の高さ	◎	金融機関、収納機関、自治体、決済事業者との接続ネットワークを長年かけて構築してまいりました。新規参入には多大な時間と信頼の獲得が必要です。
企業規模	△	現在の時価総額・売上規模は大手フィンテックに比べ小規模です。
財務健全性	◎	貸借対照表上は表面的に低く見えますが、預り金を除いた実質自己資本比率は高水準です。
市場トレンド	◎	キャッシュレス化、税公金DX、請求業務DX拡大など、市場環境は追い風です。 国内キャッシュレス決済比率は2025年に58%、2030年には65%と見込まれており、諸外国と比べても伸びしろは大きいと考えております。

当社の財務諸表の表面上の自己資本比率は低いですが、実質的な自己資本比率は極めて健全性の高い水準であると認識しており、有利子負債もありません。
当社の財務分析を実態に修正したレーダーチャートでお示しすると上図となります。

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

免責事項・お問い合わせについて

本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものであり、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向、金利、通貨為替変動等が含まれますが、これらに限られるものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ビリングシステム株式会社　IRに関するお問い合わせ

https://www.billingsystem.co.jp/corpinfo/contact/ir/

こちらのお問い合わせフォームよりお気軽にお問い合わせください

※誠に恐れ入りますが、口頭での齟齬を防ぐためお電話でのお問い合わせはお受けしておりません

ビリングシステム株式会社
IRに関するお問い合わせ

継続的にIRニュースを受信したい方は、ご用件本文に
「メール配信希望」と明記の上、お問い合わせください

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.

Billing System

ビリングシステム株式会社

Copyright (c) Billing System Corp. All Rights Reserved.